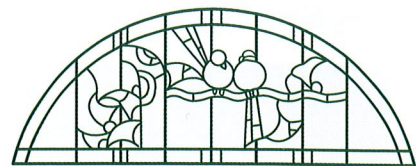


# 檀木館日和

しゅもくかんびより ◆ 第二十四号



文化のみち檀木館

Cultural Path Shumokukan

発行日: 2021年9月30日

発行: 文化のみち檀木館

指定管理者: 特定非営利活動法人檀木倶楽部

## 数寄の美

和室2北側: 入閣天井

数寄屋造り(すきやづくり)とは、

日本の建築様式の一つ。

語源の「数寄(すき)」とは

茶の湯や和歌、生け花など

日本の文化、風流を好むこと。

「数寄屋」は

「好みに任せて作った家」のこと

であり、安土桃山時代に

母屋と別に建てられた茶室が

はじまりと言われている。

竹や杉など木の節をそのまま

活かし、自然の素材の良さを

その風合いの変化を楽しむ、

質素かつ洗練された意匠が

特徴で、数寄屋風を取り入れた

住宅の様式として現代にも

受け継がれている。

(2画)数寄の美(美しい天井)

# 数寄の美ー美しい天井ー

NPO法人 榎木倶楽部理事 伊藤喜雄

数寄屋造り(すきやづくり)とは、日本の建築様式の一つ。語源の「数寄(すき)」とは茶の湯や和歌、生け花など日本の文化、風流を好むこと。「数寄屋」は「好みに任せて作った家」のことであり、安土桃山時代に母屋と別に建てられた茶室がはじまりと言われている。竹や杉など木の節をそのまま活かし、自然の素材の良さをその風合いの変化を楽しむ、質素かつ洗練された意匠が特徴で、数寄屋風を取り入れた住宅の様式として現代に受け継がれている。

## 榎木館和館の入側の天井

榎木館和館の座敷は、書院座敷(和室1・客間)と床座敷(和室2・居間)だが、それぞれの入側(いりかわ)の天井は、数寄屋造りで、榎木館の和館の細部にも、建て主である井元為三郎のこだわりが見て取れる。和室2の北側の入側①の桁(けた)は、杉の磨き(※注2)の一本丸太で、長さが約8メートル60センチある。たる木の杉丸太に横棧を打ち、杉板の野地板を張った仕上げとなっている。

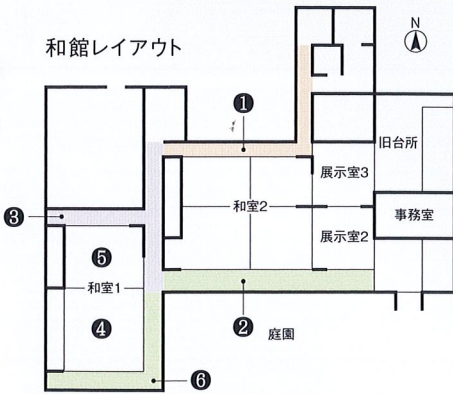


和室2:北側の入側天井

南側の入側②の桁は、松(ひのき)の角材で、たる木は杉の角材を二本ずつ並べ、その上に横棧を打って杉の野地板を張った仕上げとし、北側とはちがった趣きを見せている。屋根形状は、北・南ともに斜めの屋根裏天井である。客間(和室1)からトイレへの通路は、廊下との位置付けと思われる、平らな棹縁(※注3)天井③の仕上げとなっている。



和室1:北側トイレまでの天井



和館レイアウト

書院座敷(和室1)の主座敷(一之間)の棹縁平天井④の天井板は杉柾目板(まさめいた)、次間(二之間)の棹縁平天井⑤の天井板は杉柾目板(もくめいた)とし、二間の格に差を付けている。書院座敷の床と書院の間は、杉皮を薄くへぎ、それを縦横に編んだもので張り上げた網代(あじろ)天井で、数寄屋風を取り入れている。入側の隅部天井⑥は、隅木(すみき)からたる木を取り付けた和様(わよう)である。



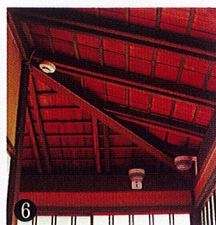
和室2:南側の入側天井



和室1:主座敷(一之間)の天井



和室1:次間(二之間)の天井



和室1:入側の隅部天井

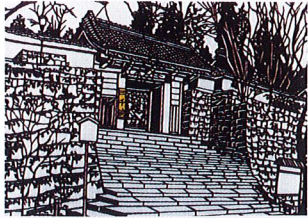
※注1:入側(いりかわ) 現在は縁側(えんがわ)と呼ばれている。かつては入側の外に濡縁(ぬれえん)が取り付けられていたが、雨戸の普及により、縁がなくなり、入側部分が縁側と呼ばれるようになったと考えられている。

※注2:桁(けた) 建物の柱の上に棟の方向に渡して、支えとする材木。

※注3:竿縁(さおぶち)天井 主に和室の天井に用いられるもの。竿縁とは等間隔に平行に取り付けられる細長い木材で、その上に天井板を張って仕上げた天井を竿縁天井という。

※注4:和様(わよう) 鎌倉時代に中国から伝わった新しい建築様式唐様(からよう)に対し、従来、古くから日本で寺院建築に用いられてきた建築の様式を指す。

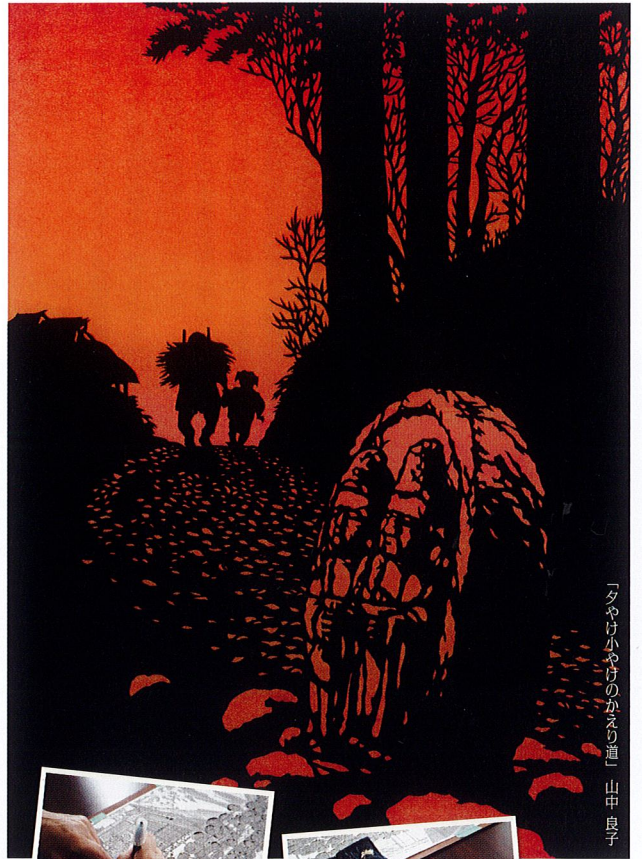
# 秋の イベント 紹介



## 伊勢型紙×春夏秋冬Ⅱ展

10/14(木)～10/26(火)

主催・アクティブ・エイジ・なごや伊勢型紙の会、文化のみち種木館  
※詳細は、裏面「文化のみち種木館」催し物暦をご覧ください。



「夕やけ小川のぬえり道」 山中良子



デザインナイフ  
直線・曲線はデザインナイフ等で  
切り抜きます。



丸キリ  
小さな丸は、  
その大きさに  
あった丸キリ  
(丸鋸)と呼ぶ  
道具を使います。

伊勢型紙は千年の歴史を持つといわれる伝統工芸で、三重県鈴鹿地方を中心に発展してきました。着物などの型染めとして使われ、細かな手仕事が生む格調高い文様が魅力です。今年のテーマは、「伊勢型紙×春夏秋冬Ⅱ」として、季節の中で作者が感じたその季節ならではの味わいを伝統的な伊勢型紙により創作。また、今回特別展示として、松尾芭蕉「おへのほそ道」をテーマに、芭蕉の旅路を表現した作品も展示します。



6/11～6/13  
木匠家ウィークNAGOYA・2021  
「木匠家がつくる椅子展」



4/23～5/9  
なごや折り紙建築展

### 令和3年度催し物暦 (4月～9月)



7/11  
開館記念ハル・カルテットコンサート



### 南側塀工事が おこなわれました

種木館の南側塀が  
2021年3月に  
コンクリート塀に  
生まれ変わりました。  
真新しいアイボリー色の  
塗装が、文化のみちの  
街並みに少しずつ  
馴染んでいきます。



改修前